

「危機の中でも」

(マルコの福音書 4 章 35 節～ 41 節)

「イエスは起き上がって、風をしかりつけ、湖に『黙れ、静まれ』と言われた。すると風はやみ、大なぎになった」(4:39)

仲森文穂

今日のメッセージ要旨

○人生はのぼり坂あり、くだり坂あり、時々まさかという坂まであります。災難は人を選ばず、イエス様に従ったがゆえに被る困難も時にはあります。だからと言って、「向こう岸へ渡ろう」と招かれるイエス様を拒むなら、あの風も波も静めるという素晴らしい力に触れることができないのです。

弟子たちが乗った小舟は、私たちの家庭生活や職場生活、子供たちの学校生活など様々に置き換えることができます。平安な日々もあれば、雷や嵐の日々もあります。私たちはそれぞれの立場で小舟に乗って、襲いくる突風と戦っているのです。だけど私たちの幸いは、その小舟にイエス様も乗っておられることです。でも、眠っておられるイエス様に弟子たちは苛立ち、「こんなに私たちが苦しんでいるのに、何をしておられるのか」と訴え、揺り起こしたのです。このイエス様の眠りは無神経の眠りなののでしょうか。いいえ、信仰が深い故の平安の眠りだと思います。つまり危機の中で平安を保って眠るイエス様こそ、信仰に対して目覚めている。危機の中で目覚めてパニックを起こしている弟子たちこそ、かえって信仰に対して眠っているのです。

○この後のイエス様が風を叱り、湖に向かって「黙れ、静まれ」と命じられると大風になった、という話は信じられないでしょうか。

私は27年前の阪神淡路大震災の年の4月に神戸市灘区にある主恩教会に転任しました。教会の建物は無事でしたが、教会員の家庭は全壊21軒、半壊14軒でした。「こんな目にあって神様のことが信じられなくなった、と言い出す人がもし出てきたらどうしよう」という、なんとも不信仰な思いが頭をよぎりました。でも、杞憂でした。立ち直れないような被害の中、皆さん礼拝に本当によく出席してくださったのです。そして、「今日も元気をいただいた」と言って帰って行かれるのです。人に言えない苦しみがあるはずなのに、誰もが前向きに生きようとするその姿に、私は何度感動させられたことでしょう。「ほんとにこの人たちはすごい、信仰の力ってすごい」と私牧師のくせに、改めて身をもって知ったのです。

ですから、私はイエス様によって湖が、そしておそらく弟子たちの心もが大なぎになった、というこの話はそのまま信じたいと思います。詩編3:5に「私は身を横たえて、眠る。私はまた目をさます。主がささえてくださるから」とあります。危機の中で不安や恐れに駆られるのは、ごく自然なことです。泣きたい時は泣き、悲しい時は悲しんでいいのです。しかし、いかなる危機の中でも、私たちが乗る舟にはイエス様が居てくださるのです。

この新しい年も前途に何が待っているか分かりません。でも、主による平安と希望が私たちを必ず包んでくださると信じ、前を向いて歩いていきたいと願うものです。